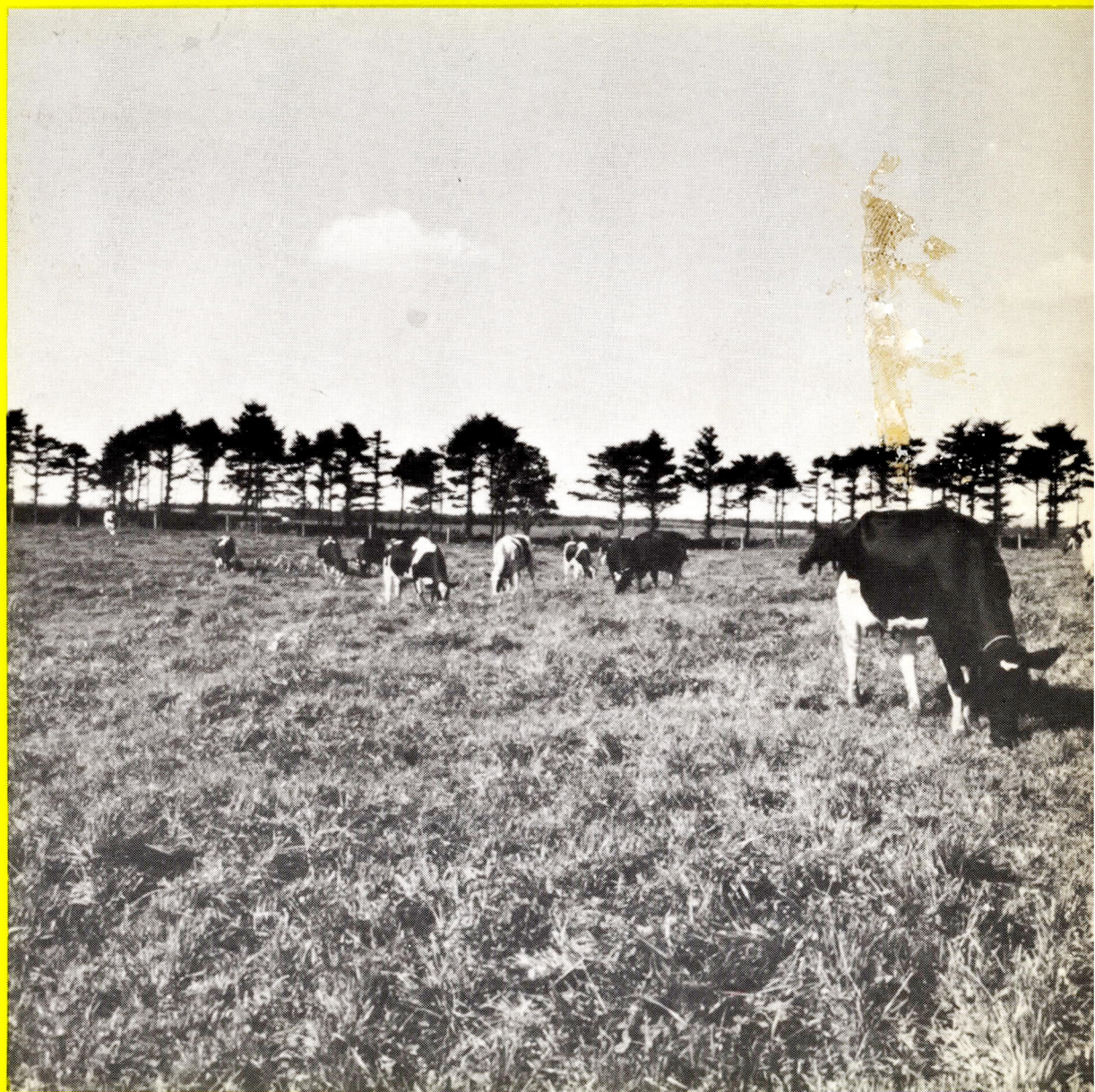


牧草と園藝



～事業所紹介～

長 沼 農 場

札幌市内から国道274号線を東に車で約40分走ったところに長沼町がある。長沼町は水田が主であるが、南東部に細長く続く馬追山の山麓には最近札幌市内などから移転した大型酪農家が多数あり、その馬追山の最南端に雪印種苗長沼農場がある。国道337号線（旧道々千才・三川線）沿いの長沼町と千才市の境に位置する。千才空港からは車で15分のところである。

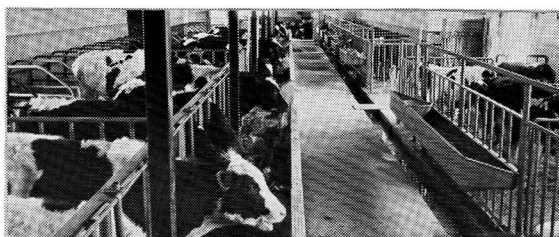
現在、長沼農場は札幌市内にある札幌研究農場の分場として一部業務をおこなっているが、面積は32haで作付けの内訳は肉牛用放牧地5ha、採草地10ha、サイレージ用デントコーン12ha、採種圃、その他5haとなっている。

家畜は肉牛60頭と緬羊が40頭おり、肉牛はホルスタイン種雄子牛で、北海道の立地条件に合った粗飼料を有効に活用する雪印方式に関する一連の試験をはじめ、最近では肉牛の本場アメリカの飼料穀物協会との共同試験をおこない、モミガラを活用したオールインワンタイプの飼料で好成績をあげている。

近い将来は肉牛ばかりでなく、乳牛も、そして、飼料作物・園芸作物の試験研究部門も本拠を長沼農場に移し、より充実して研究開発を続けることになっている。



試験畜舎全景
左：肉牛舎 中：堆肥舎
右：緬羊舎



肉牛試験牛舎内部
左：肥育仕上房
右：哺育・育成房



粗飼料を有効に活用して
肥育経費を少なくする
(並～中規格を目標)



出荷直前の肥育牛
(出荷体重 600～650kg)
(枝肉歩留り 58%、中規格)